

行事等

10月5日：獣医師賠償責任保険中央審議会
10月11日：第87回日本獣医師会雑誌編集委員会
10月12日：動物愛護週間中央行事 第7回プログラム委員会（WEB）
10月13日：第28回総務委員会
10月17日：第74回全国装蹄競技大会褒賞授与式に境専務理事が出席

10月18日：第28回学術・教育・研究委員会（WEB 併用）
10月22日：令和5年度政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会に境専務理事が出席
10月24日：令和5年度第7回業務運営幹部会
10月25日：万博ペット同伴検討委員会に境専務理事が出席
10月31日～11月6日：FAVA2023 マレーシア大会に藏内会長、鳥海副会長、境専務理事が出席

案内

2023年度第13回 家畜感染症学会学術集会

テーマ：DOHaD とゲノム科学による次世代の家畜感染症制御

日時：2023年12月9日（土） 13:30～17:30
12月10日（日） 9:00～16:30

会場：東京大学農学部

開催方法：対面並びにWeb開催（Zoom）のハイブリッド形式

大会長：猪熊 壽（東京大学）

参加費：正会員・賛助会員 4,000円
非会員 6,000円、学生無料

内容：

2023年12月9日（土） 13:30～17:30

●基調講演：

- DOHaD学説に基づいたゲノム医療・エピゲノム医療の最前線 秦健一郎（群馬大学）
- OneHealthにおけるDOHaD学説に基づく次世代の家畜生産と感染症制御 後藤貴文（北海道大学）

●情報提供：

ゲノミック評価による牛群改良事例と感染症耐性の解明に向けて 山本洋平（敷島ファーム）

●総合討論

●家畜感染症学会活動報告

●意見交換会

2023年12月10日（日） 9:00～16:30

●第12回最優秀賞受賞者講演

黒毛和種哺乳子牛における超音波検査を用いた潜在性呼吸器病の診断と抗菌薬治療効果

前田洋佑（北里大学）

●一般口演（10題程度を募集予定）

●ランチョンセミナー

●疫学に関する全国アンケートシンポジウム

1 疫学に関する全国アンケート結果報告

蒔田浩平（家畜感染症学会事務局，酪農学園大学）

2 畜産のために疫学ができること

蒔田浩平（酪農学園大学）

3 家畜衛生分野における都道府県職員向け獣医学研修の紹介

早山陽子（農研機構動衛研）

4 岐阜県における豚熱ワクチン対策への疫学的手法の活用事例

桑田桂輔（岐阜県中央家保）

5 総合討論

●最優秀賞・大会長賞・奨励賞表彰

*参加には事前登録・入金が必要。当日の受付は行いません。

参加及び一般口演の登録締切：2023年11月下旬予定
学会 HP (<http://www.kachikukansen.org/>)

案内

獣医コミュニケーション研究会 (NDK)

日本獣医師会雑誌「獣医療とコミュニケーション」連載コラボセミナー

NDKでは、連載「獣医療とコミュニケーション」と連動したコラボセミナーを予定しております。著者の方に連載記事と関連した内容についてさらに掘り下げてお話しいただけます。参加費無料でzoomにて行いますので、ふるってご参加ください。

日時：11月27日(月) 19:00～20:30

講師：福山 聡 さん (フォービッグ那須)

(日獣会誌 2023 年 6 号掲載)

演題：「養豚コンサルタントにおける
コミュニケーション」

進行：堀北哲也 さん (日本大学)

申込先：[https://forms.gle/
8t6NrcFLpJ4kygTV6](https://forms.gle/8t6NrcFLpJ4kygTV6)

申込締切り：なし、参加無料



日時：12月20日(水) 21:00～22:30

講師：犬丸憲之 さん (犬丸獣医科クリニック院長)

(日獣会誌 2023 年 11 号掲載)

演題：「農場 HACCP とコミュニケーション」

進行：白戸綾子 さん

申込先：[https://forms.gle/
MNK3Fa1utABsuWHL8](https://forms.gle/MNK3Fa1utABsuWHL8)

申込締切り：なし、参加無料

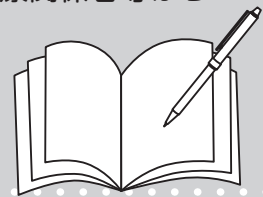


お問い合わせ先：堀北哲也 (horikita.tetsuya@nihon-u.ac.jp)

日本獣医師会雑誌投稿原稿の募集について

日本獣医師会においては、構成獣医師をはじめ多くの獣医療関係者等から日本獣医師会雑誌への投稿原稿を広く募集しております。

なお、投稿に際しては、「日本獣医師会雑誌投稿規程
(第76巻4号186頁に掲載)」を参照願います。



第32回世界牛病学会の開催

第32回世界牛病学会 (World Buiatrics Congress 2024) が、2024年5月20日～24日、メキシコのカンクンにて開催されます。是非ご参加ください。

<https://www.wbcmexico2024.com/>

なお、本学会の一般演題の要旨提出締切りは、本年11月26日となっております。



日本獣医師会獣医学術学会誌投稿原稿の募集について

日本獣医師会学会においては、構成獣医師をはじめ多くの獣医療関係者からの獣医学術学会誌掲載の研究論文を随時募集しておりますので、奮ってご投稿願います。

学会では、獣医師専門職をはじめ、獣医学系大学の学生、獣医学関係分野の研究者等が学術研究の発表をされる場として、獣医学術学会誌への投稿原稿を広く募集しています。

日本獣医師会が毎年度開催する獣医学術学会年次大会で一般口演された研究発表等も、是非ともご投稿いただき、誌面での発表をお願いします。

なお、投稿に際しては「日本獣医師会獣医学術学会誌投稿規程（第76巻5号240頁）」及び投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に策定された「日本獣医師会獣医学術学会誌投稿の手引き（第76巻5号245頁）」を参照願います。

楽しみながら
獣医師を知り
動物と仲良くなろう！

2023
11/23

(木・祝)

10:00 ~ 16:00

上野恩賜公園

(不忍池周辺)

JR・地下鉄・日比谷線「上野駅」下車 徒歩約2分
京成線「京成上野駅」下車 徒歩約1分



入場無料
<雨天決行>

同時開催

令和5年度
動物愛護週間 中央行事
(屋外行事)

主催:



公益社団法人 日本獣医師会

いのちみつめる。いのち育む。

紹介

◎新刊

リラの花咲くけものみち

藤岡陽子 著

田村 豊 (酪農学園大学名誉教授)

私は16年間にわたり酪農学園大学において教育・研究に携わり、その間多くの獣医学生とかかわってきました。6年間という就学期間は学生にとって非常に長いものであり、獣医師国家試験という不安を抱えつつ将来の目標に向かって充実した毎日を過ごす多くの学生がいる反面、入試で疲れ果てて目標を見失った学生や親の不幸で経済的基盤が揺らぐ学生、毎日の学業についていけず不登校になった学生、学生間のトラブルを抱えている学生などをみてきました。また、多くの入学生は伴侶動物医療の臨床獣医師を目指して大学の門を潜ってきています。それには北海道の獣医系大学をモデルにした漫画の影響もあるように感じています。獣医師の職域は学生が思っている以上に多岐にわたっており、酪農学園大学では入学当初から早期に将来の職域を決めることはなく、就学期間中にさまざまな先輩の意見を聞き、自らの体験(実習)を通じて、自分にとって興味があり、自分が生きがいに思える職域を決めるように指導しています。今般、そんな将来に対する漠然とした不安を抱えながら、家族の不幸にもめげず、自分の将来の目標を明確にした女子獣医学生の入学から卒業までの青春を描いた小説が発刊されましたので紹介したいと思います。

主人公は幼い頃に母を亡くし、父が再婚した継母とうまくいかず不登校になった岸本聡里です。愛犬だけが心の支えだった聡里は、祖母に引き取られペットと暮らすこととなります。祖母の発案で大学受験を目指して学習塾に通い、塾講師の勧めで獣医師を志すことに、酪農学園大学がモデルの北農大獣医学類に入学すると、慣れない寮生活が始まりました。面倒見のよい先輩、気難しいルームメイトや、志をともにする同級生らに囲まれ、学業や伴侶動物病院でのアルバイトに奮闘する日々を過ごします。学業ではキャンパス内で飼育される家畜の世話をする農場実習や、同じキャンパス内にある馬術部の馬房で馬に触れるなどペット以外の動物にも接するようになります。多くの入学生と同様に家庭で飼育される伴侶動物の臨床獣医師を目指していた聡里でしたが、1年生のある日、ルームメイトの誘いでNOSAI

夏期実習に参加することになります。大学ではまだ習っていない除角手術や直腸検査などに汗を流している最中に、同級生の実家である牧場で馬の出産に立ち会うこととなります。それが難産で破水から時間が経過したことから帝王切開もできない中で選択したのは、母馬を救助するために胎児を犠牲にすることでした。切断された胎児の処理が終わる頃、大きなショックを受けた聡里は獣医師になる自信を失ってしまいます。指導獣医師の「獣医師の仕事は甘くない。無理だと思うならやめた方がよい」という言葉が身に沁みます。急遽東京に戻った聡里は、持病で早世した母親が生まれてくる聡里に対する思いを知ることになり、再び獣医学を勉強することを決心します。上級生になっても伴侶動物病院でアルバイトをするうちに、重症の動物や理不尽な飼い主に対峙する中で獣医師のあり方を目の当たりにし、動物や最愛の祖母の生命を通じて「生きること」について考えさせられることとなります。6年生になった聡里は、1年生の時と同じ場所で夏期臨床実習を受けることとなります。指導獣医師の農家に対する思いやりや、農家との交流、農家の獣医師への信頼などを実感するうちに、将来は生産動物の臨床獣医師になることを決心するのです…。

獣医学生は長い就学期間に人生の大きな変化を経験し、さまざまな悩みに直面します。小説では主人公の学生生活を通じて余すことなく記載されています。とても小説とは思われないほどのリアルさがあり、まさに自分がかかわった学生の毎日を見ています。中には獣医学生にとって避けて通れない安楽死の問題や、将来に対する暗然たる不安を学生目線で素直に書かれています。また、大学に関する記載では酪農学園大学での実在の授業内容や研究内容がちりばめられており、読者が主人公に成り代わって大学にいるように感じられるはずです。さらに特記すべきは、獣医学の専門用語が小説の端端に正確に表現されていることで、著者が獣医師であるのかと思わせるほどでした。現在の獣医学生やこれから獣医学を目指す高校生には是非とも読んで欲しい小説であると思います。

著者：藤岡陽子

発行：光文社

発行日：2023年7月20日

体裁：379頁

定価：1,700円(税別)

ISBN 978-4-334-91541-4

